

平成 27 年度 向山小学校区 第 1 回地域コミュニティ連絡会まとめ

7月3日(金)に開催された「向山小学校区第1回地域コミュニティ連絡会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。まとめができましたので、送付いたします。(市のホームページにも掲載)

問合せ 地域安全課 きずなづくり推進室 (電話983-2708)



ご参加ありがとうございました。

【当日参加団体一覧】

団体名		
東大場町内会	多呂北沢双葉会	向山小学校 PTA
錦が丘自治会	夏梅木幸生会	中郷中学校
多呂自治会	地域包括支援センター	中郷中学校 PTA
三島パサディナ自治会	保護司	錦田中学校 PTA
夏梅木町内会	交通安全母の会	中子ども会
中自治会	組合立若葉保育園	学校支援地域本部
北沢町内会	大場幼稚園	環境美化推進員会
中郷地区自治会連合会	大場幼稚園 PTA	地域安全推進員
民生委員・児童委員	向山小学校	交通安全母の会

※当日参加者 31 名

【地域の情報交換】

～各団体より校区の皆さんへ、情報提供&ご協力をお願い～

- 東大場町内会：“誰でも気軽に顔を出せる場を作ろう”と集会場を開放し会費 100 円で水曜午前中「図書カフェ」開始。今年しゃぎりも始めた(子ども 25 人参加)。今後も「図書カフェ」を有効活用し、要支援者の顔がわかるようになっていきたい。
- 地域安全推進員：10 名で活動中。朝の交通安全、青色パトロール、振り込め詐欺防犯キャンペーンなど、地域の安全を皆に呼び掛けている。子どもたちの安全を守るため、多くの人に朝の活動や見守りなどに参加してもらいたい。
- 中子ども会：7/23(木)のお祭りに向け、子どもたちはしゃぎりなど頑張っている。ぜひお祭りに来て、子どもたちの頑張りを見てあげてほしい。

<会場アンケート>

話し合いたいテーマについて、参加者の意向を伺いました。



【テーマ別会議】

会場アンケートの結果

- ① 防災組織の体制を強化するためには?.....5 人
- ② 子どもたちに地域で活躍してもらおう!.....19 人
- ③ 地域の行事に新たな参加者を取り込もう!.....6 人
- ④ その他.....1 人

※アンケートの結果、テーマ②と③の 2 グループに分かれ話し合いました。

(次頁以降「テーマ別会議まとめ」参照)

参加者の発言内容を「現状・お困りごと」と、課題解決に向けた「解決策・アイデア」に分類しました。

テーマ②

②「子どもたちに地域で活躍してもらおう！」

子どもたちに地域で活躍してもらうために地域でどういったことができるのか、皆でアイデアを出し合いました。

		現状・お困りごと	解決策・アイデア
活躍の機会を、子どもたちに考えさせる	楽しみのある参加方法	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの考えで、スクールガードへお礼の気持ちを「寄せ書き」にして持ってきてくれた。 ・東大場のお祭りでは子どもが活躍している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに考えさせることが、地域で活躍することにつながるのではない。 ●お祭りで活躍 <ul style="list-style-type: none"> ・お祭りで売り子や呼び込みを頼む。 (例) だがしや楽校 ・お祭りのお店を中学生にやらせる。 ●環境美化 <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ拾いツアーの企画に参加させる。 ・子どもの視点から見たゴミ拾い企画。 <大人が後押し> <ul style="list-style-type: none"> ・市で環境美化の日を設定して、地域・学校・行政が一体となって取り組む。 ・大人が手本になる行動をすることも大事。 ●通学路の安全 <ul style="list-style-type: none"> ・通学路を子どもの視点でチェック。 ●防災訓練 <ul style="list-style-type: none"> ・中学生に炊き出しをやらせる。 ・障害のある人のお手伝い。
	遊び場の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊ぶ場所がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●親の意識を変える <ul style="list-style-type: none"> ・昔の遊びを伝えていく。 ・多少危険でも、川遊びなど親子で経験していく機会をつくる。
子どもたちと顔見知りになる	地域住民の顔がわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人顔が見えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●近所の住民を知る <ul style="list-style-type: none"> ・世代を超えた交流。近隣家庭の状況を知ろう！ ●子どもが地域の住人を知るきっかけづくり <ul style="list-style-type: none"> ・親から子どもに挨拶する。人間関係は基本挨拶から。 ・お年寄りと交流を持つ。 ・かけこみ 110 番の家の人の顔を知る

		現状・お困りごと	解決策・アイデア
幼・保と地域の連携	子どもを地域で育てる		●園児にできること <ul style="list-style-type: none"> ・老人とのつながり。(デイサービスとの交流、老人会との交流) ・園児が参加出来る行事に参加する。参加することにより地域の方に覚えてもらえる。 ・職員と地域の人がふれあう機会を増やす。
	小・中学校と地域の関わりを広げていく	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもよりも親が行事に参加しない。 ●学校支援地域本部の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・読み書かせボランティアの増員や PTA バザー活性化などを計画。まだ出来て間もないので、少しずつ計画を進めている段階。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを地域に巻き込むには、学校の勧め、大人の賛同が必要。 ●学校からの働きかけ <ul style="list-style-type: none"> ・先生から話してもらう。 ・地域の行事を学校でアピールする場を作る。 例) 函南では子どもは必ず行事に参加。 →地区行事を学校が把握。
	地域の人考える	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校に何かやってもらう」⇒人任せ。学校はプレッシャーを感じる。 	●皆で何ができるか考えよう <ul style="list-style-type: none"> ・「学校が」ではなく、一人一人地域の人何ができるか考えてほしい。 ・学校と地域でアイデアを出していく。 ・情報を伝えることが、接点になる。

今回の話し合いから生まれた課題解決に向けた取り組み案

- ◇子どもたちにイベントの企画・立案をしてもらうことで、色々なイベントを子どもたちが活躍する機会にしていこう！
- ◇子どもたちと地域住民がお互いに顔を知る場を作ろう！
- ◇幼・保・小・中と地域で、お互いにふれあいの機会を作り連携を広げよう！
- ◇学校から働きかけてもらうのと同時に、各人が自分に何ができるかを考え、積極的に情報交換して実行に移していこう！



今回の話し合いで出された意見を参考にして、
 各団体や各町内会で課題解決に向けて取り組んでみよう！
 次回の地域コミュニティ連絡会で、進行状況の確認ができるといいね！

テーマ③

「地域の行事に新たな参加者を取り込もう！」

「防災訓練へ新たな参加者を増やしたい」という意見が多く、防災訓練の参加者が少ない理由や増やすための工夫を中心に話し合いました。

		現状・お困りごと	解決策・アイデア
新たな参加者を取り込みたい行事にはどんなものがある？	地域の行事	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練 ・納涼祭 ・夏祭り ・氏神さんの元旦祭、夏祭りに参加する人は元から住んでいる人しかいない。 ・他の自治会の情報が全然入ってこない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域行事の情報がほしい ・他地域で行われている行事、老人会などの情報がほしい。例えば老人会どうしでの交流など、情報交換できるのでは。 ・子どもの交通安全の情報がほしい。
	小学校の行事	<ul style="list-style-type: none"> ・校区祭 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災をテーマにしたイベント ・小学校を使って、防災をテーマにした子どもたちが主役の体験イベントをやりたい。 ●日常的な行動を起こす ・子どもたちが日常的に独り暮らしのお年寄りを訪問する。
	廃品回収・清掃	<ul style="list-style-type: none"> ・廃品回収 ・清掃 	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども会と地域の連携 ・廃品回収の手伝いで、町内役員に参加依頼があるが、子ども会のことなので子ども会（ご主人）の参加を！（中区）
	老人会の活動		<ul style="list-style-type: none"> ●老人会メンバーを増やすには？ ・認知症カフェ等のサロン活動
防災訓練の参加者を増やしたい	現役	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練参加人数は多いが、高齢者が多く現役の人が少ない。（パサディナ） ・昔に比べ、現役は仕事が大変。 ⇒日曜の実施のためか、町内の4人に1人が参加。30～40代の現役の方がほとんど。（東大場）→東大場は他地区と違う状況 	<ul style="list-style-type: none"> ●現役の人が参加するには？ ・企業の協力が必要。 ・市で方針を出すなど、市から呼びかけてもらう。
	小学生	<ul style="list-style-type: none"> ・参加してほしい小学校児童は少ない。（東大場） 	<ul style="list-style-type: none"> ●小学生が参加するには？ ・少年団やクラブ活動などがあるので、小学校や団体と連携をとる必要がある。
	高齢者要支援者	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の参加が少ない。 ・参加してほしい障害者や高齢者は参加しない。 ・要支援者を誰が支援するのか、決めておく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●要支援者が参加するには？ ・要支援者には救援物資を配布するなどの工夫をする。 ・組織を変え、支援者を増やしていく取り組みを実施している。（東大場）

		現状・お困りごと	解決策・アイデア
なぜ防災訓練に参加しないのか？ (現状の問題点)	新旧住民に溝がある	<ul style="list-style-type: none"> ●新旧住民の違い <ul style="list-style-type: none"> ・古くからの住民は団結力が強く、新しく来た住民は入り込む余地がない。(北沢) ・古くからいる人と新しく来た方はベクトルが違う。新旧住民はなかなかまとまらない。 	
	各家庭の情報がない	<ul style="list-style-type: none"> ●住民がわからない <ul style="list-style-type: none"> ・10年前の名簿では古い。男何人、女何人、それだけでも分かると良い。 ・どこの部屋に寝ているか知っていることが大切。 ・小中学生がいることが分からない。 ・空き家も多い。 ●恥がある <ul style="list-style-type: none"> ・恥があり、お年寄りのいることを言わない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●情報の共有 <ul style="list-style-type: none"> ・町内全員の名簿を出してもらっている。 ・自治会から民生委員に個人情報を出してほしい。(子ども家族と同居をしていると要支援者対象外になるが、そのようなお年寄りの情報も出してほしい)
	自治会に入らない	<ul style="list-style-type: none"> ●アパート住民の情報が入らない <ul style="list-style-type: none"> ・入居時に管理会社が「自治会に入らなくていい」と言って斡旋している。組費を出さないで、困っている。 ・アパートに高齢者がいるが、町内会に入らない人もいる。避難場所も決まっていない。把握できないので、町内会も苦労している。(東大場) ●町内会に入らない <ul style="list-style-type: none"> ・避難先が分からない人が多い ⇒防災訓練に参加できない。 ・町内会に入っていないひとり暮らしの方の避難をどうしてよいかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●住民が情報を出したくなる工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・自治会は任意。「入りたくない人は入らなくて良い」という考え方もある。 ・老人がどこにどれくらいいるか、全員の名簿を出すと災害時、水を配給することができるので、世帯主に責任を持って書いてもらおう。そうすると全員出してくれる。毎年更新し、組長が把握。組が責任を持つ。

		現状・お困りごと	解決策・アイデア
効果的な訓練方法は？	組ごとに参加者を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・強制的だと世帯代表になってしまうので、参加者はあまり増えないのではないか。 ・一瞬でも集まるのがいやな人は多い。 <p>●参加できない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢で集まらない ⇒手助けしてくれる人が必要。 	<p>●組単位で参加者を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組単位で参加者を増やしていく。 ・地域の集合場所をきちんと決めて、動ける人は全員、強制的に集まるようにする。 ・「行かないと損」というように何か配布する。(救援物資やくじなど) ・一瞬でもいいので、顔を合わせる機会を作る。顔合わせが大切。 ・点呼をとる。参加していない人も申告してもらう。町内では難しくても、組ならできる。 <p>●組ごとに地図を作成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組ごとに地図を作成し、毎年更新する。それをもとに何人来ているか点呼すれば5分で終わる。(中島) ・黄色いハンカチも併用する。
	若い力が欲しい	<ul style="list-style-type: none"> ・助けたいと思っても、高齢だと難しい場合がある。 	<p>●若者の参加が重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・力のある若い人に真剣に訓練をやってもらいたい。 ・中・高校生の参加。防災マニュアルでは中・高の女子が救護班、男子は搬送となっている。

今回の話し合いから生まれた課題解決に向けた取り組み案

- ◇各家庭の情報を地域(組など)で把握しておくことが大切。情報をこまめに更新して、小さな情報も無駄にしないようにしよう！
- ◇防災訓練では組単位が鍵。頻繁に(毎月など)点呼や顔合わせをすることで、各家庭の変化にも気づくことができるし、組内のコミュニケーションの機会も増える。組単位ならば、月1回ペースで点呼ができる！

今回の話し合いで出された意見を参考にして、
各団体や各町内会で課題解決に向けて取り組んでみよう！
次回の地域コミュニティ連絡会で、進行状況の確認ができるといいね！



